

「城山一本杉」の現状変更について

名 称：城山一本杉

員 数：1

種 別：記念物（天然記念物）

管 理 者：城山稲荷社（長岡市与板町与板乙 6044）

指定年月日：昭和 47 年 10 月 14 日

概 要：与板城の主郭に立つ直江兼続ゆかりの杉と伝えられる杉。樹齢約 400 年、樹高約 20m、根元周り 6.6m、目通り 3.5m。

令和 4 年 12 月の大雪の影響を受けて杉の幹が大きく破損し、倒木の危険が予想されたため、幹の伐採を行った。作業は令和 5 年 5 月 8 日に着手され、同月 31 日に完了した。



城山一本杉 根元部分き損状況
(令和 5 年 3 月 13 日撮影)

城山一本杉 現状変更作業状況
(令和5年5月11日撮影)



城山一本杉 現状変更完了状況
(令和5年5月17日撮影)

【抜粋】 『与板城跡 城山の 1 本杉』 の損壊について（報告）

樹木医 岩田統子
（新潟県文化財保護指導員）

2 簡易空洞調査

当該樹の幹周と内部空洞の大きさを簡易計測し、空洞率を計算した。計測箇所は地上から手が届く高さ 200cm までとし、地上部から 20、50、100、150、200 cm の 5 ヶ所を測定した。内部空洞は東側を基準面とした垂直方向と水平方向の長さを測定した。（図 1） 調査結果では、水平方向では空洞部の長さが樹幹直径の 70% を超える。この数値は倒伏につながる危険な樹木に相当する*。垂直方向では 50~60% と値は小さくなったが、これは油性コーキングを塗布した材が、硬く残っていて計測が不可となっているからであって、その材の背後では腐朽が進行しているものと推測される。材質の強度低下および空洞化は数値以上に進んでいると考えられる。

*参考資料 クラウス マテック 1) 『樹木のボディランゲージ入門』 P48-50
2) 『樹木の力学』 P54

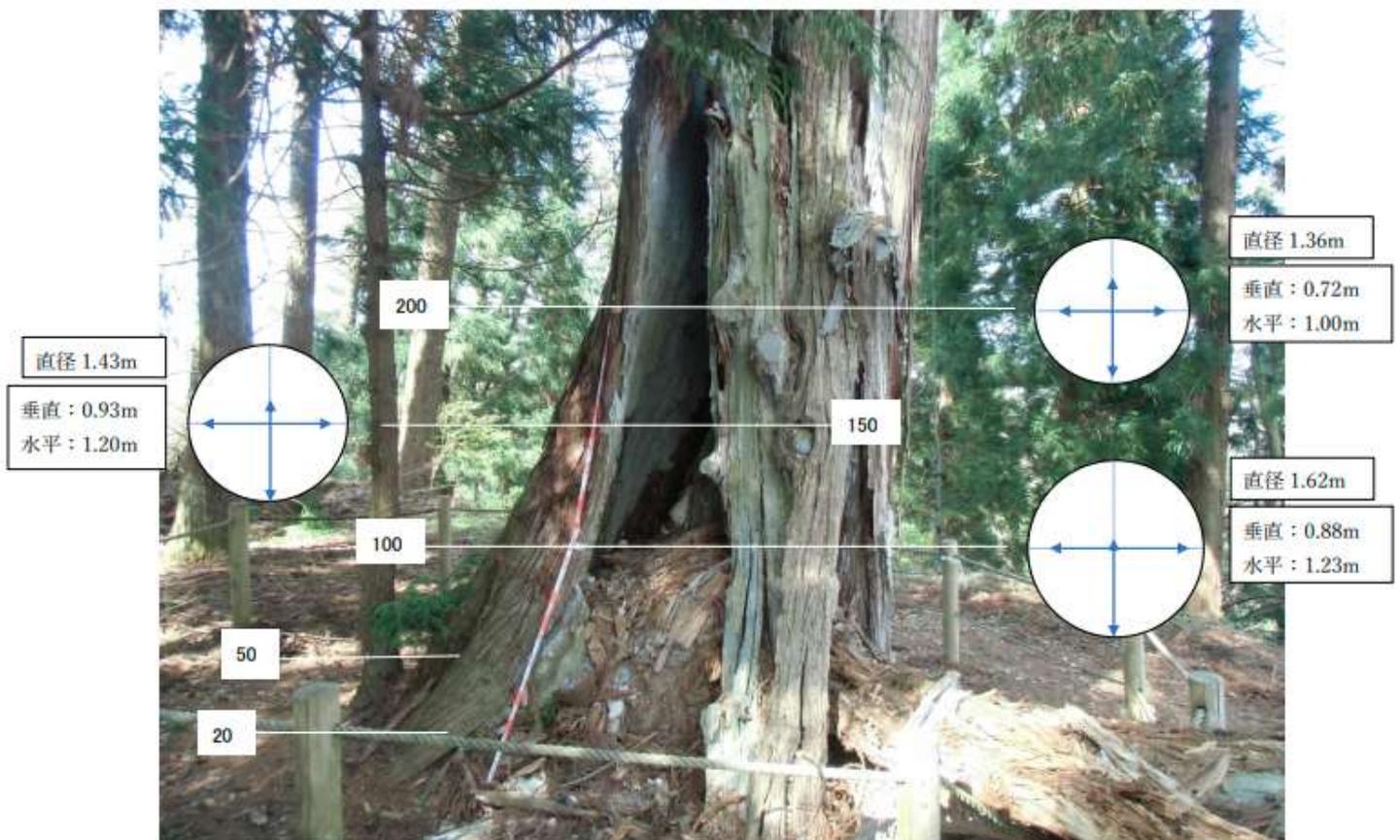


図 1 高さ 100・150・200cm における直径と空洞の長さを比較した図